

脳神経外科 病棟より

脳神経外科は、主に脳血管疾患や頭部外傷などで、意識障害、運動麻痺、失語症などの機能障害を発症して、病院に運ばれ急性期治療を受けて、早期リハビリが開始されます。

脳は生命・全身機能の統合調整の中枢であり、その障害により意識・呼吸・循環動態に急激な変化が起こりやすく、入院時すでに生命の危機にさらされている事もあります。

救急から急性期・回復期と過ごすなかで、日々患者様は変化していきます。そのスピードは人それぞれで、時間をかけて一つ一つ出来るようになる事もあれば、想像もしなかった突然の変化が起こることもあります。

ご家族は冷静に適切な判断が出来ないまま、怒涛のように進む状況変化を把握するだけでも精いっぱいな状況の中、患者様は手足を思うように動かせない、うまくしゃべれない、というような後遺症などから、心の整理がつかないなど孤立感を抱えることもあります。脳神経外科疾患看護においては、洞察力を持って、意識レベルの確認や全身の状態を経時的に観察、アセスメントし些細な変化に早期に気づくことが、状態に合わせた最適な処置やリハビリが提案でき、患者さんに多くの機能を残すことができます。

私たちは、医師を始め、理学療法士・作業療法士・ソーシャルワーカーなど他職種と連携をキーワードに、早期からリハビリテーションを開始し、ゴールに向かって残存された機能が最大限なる機能回復を促すケアを心がけております。また、突然の発症による状況に心理・社会的側面からのサポートも重要と考え患者様だけでなく、患者様を支えるご家族の不安に対しても寄り添い、十分に関わられるように努めています。

